

浜の活力再生プラン
(第 2 期)

1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID : 1116002

組織名	戸田地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 塩崎敏巳 (戸田漁業協同組合代表理事組合長)

再生委員会の構成員	戸田漁業協同組合、戸田まき網漁業者協会 戸田底びき網組合、戸田小釣協会、沼津市
オブザーバー	静岡県

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	戸田地区 (単一漁協) 正組合員 175 名 海外まき網漁業 (1 経営体) 漁業者数 13 名 遠洋かつおまぐろ一本釣り漁業 (1 経営体) 漁業者数 12 名 大中型まき網漁業 (3 経営体) 漁業者数 178 名 小型機船底びき網漁業 (8 経営体) 漁業者数 23 名 沿岸漁業代表 (118 経営体) 漁業者数 85 名 准組合員、員外者含む
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

沼津市戸田は、静岡県伊豆半島西海岸に面し「夕映えと山海の里」とも呼ばれ、海と山に囲まれた豊かな自然と美しい景観に恵まれた漁村である。旧戸田村は平成 17 年 4 月沼津市と合併後、同市の最南端に位置し、奥座敷的な存在となっている。沿岸や漁港内は、アジ・タイ・イサギ・ムツ・メジナ・イカなど季節によって様々な魚が釣れるフィッシングポイントとしても絶好な場所でもあり、また、三方を達磨山、真城山など山々に囲まれた海の幸、山の幸に恵まれた環境にある。

当地区の主幹産業は漁業であり、江戸時代から戦後にかけてはカツオ・マグロ漁が盛んで、特に昭和 50 年代半ばまでは遠洋かつお・まぐろ漁業の一大漁業基地であった。現在はまき網漁業 (アジ、サバ、イワシ、カツオ、マグロ漁) を中心に小型底びき網漁業 (エビ、手長エビ、メヒカリ、ムツ、カサゴ)、一本釣りや刺網等の沿岸漁業 (タイ、イセエビ、サザエ) など多岐にわたる漁業が営まれ、静岡県内でも有数の漁業地区であるが、当地区には魚市場がないため水揚げは主に、近隣の沼津港、焼津港、小川港や銚子港、三陸沿岸の市場に水揚げあるいは陸送で出荷している。

当地区の主力である大中型まき網は現在 3 船団、全体で年間 61,000 トン、日本有数の水

揚げ実績を誇っており、漁業就業者も水産高校や漁業高等学園の卒業生を中心に県内外からの若い担い手が就業している。しかしながら近年、資源状況の変化等により操業場所が北上し、銚子、塩釜、気仙沼、八戸等を基地として遠方の漁場で操業を行っており、燃油高騰も影響し操業コストの増大が漁業経営を圧迫している。

また、底びき網漁業、沿岸漁業は、高齢化による漁業者の減少、次世代の担い手の不足が顕著に現れており、ピーク時には1,000人以上いた正組合員数も現在では175人となるなど漁業を取り巻く環境は厳しさを増している。

一方、まき網漁船や底びき網、沿岸漁船が漁獲した水揚物の一部は、漁協が漁船と直接取引で買い入れ、4台の移動販売車にて週末の朝市、県内4市のJA直売所で出張販売を行っている。これらはいずれも消費者と対面の直接販売であり、鮮魚を中心に、地元住民や観光客に口コミ等で人気である。また、小型機船底びき網漁業で獲られる世界で1番大きい高足ガニや深海魚、駿河湾の本えび等はマスコミにも取り上げられ、地元特産品として注目が集まっている。

(2) その他の関連する現状等

当地区は三方を山で囲まれているため、昔から陸の孤島と呼ばれ、地震・津波・高潮対策や道路のインフラ整備も余り進んでおらず、自家用車で市の商業圏へは1時間、近隣の商業圏へは30分かかるのが現状である。このため、多数の従業員を雇用していた企業等が近隣に整備された工業団地へ移転し、それに伴い若年層も人口流出し、過疎化・高齢化が進んでいる。また、漁業以外の重要な主幹産業である観光業については、新鮮な魚介類を求めて旅館や民宿に多数来ていた観光客が年々減少しており、地域の魅力の発信、地域の活性化が課題となっている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

◆海外まき網漁業及び遠洋かつおまぐろ一本釣り漁業

水揚げしたカツオを漁協が買い取り、県内（他地区）の鰹節加工業者に委託して荒節加工したものを、漁協が花かつおに加工する等の高付加価値化に取り組むことによりカツオの単価向上を図る。

◆大中型まき網漁業

まき網漁船を用船しての改革型漁船による「もうかる漁業創設支援事業」を単協が事業実施者として行うケースとして先駆的に取り組み、3年間の事業期間を平成23年、24年の2年間で終了、成功させた。大中型まき網3船団については探索船兼運搬船を導入し、船団隻数の縮減による省コスト化を図るとともに、LED集魚灯や最先端の漁労機器や燃費計、燃料整流器など省エネ機器導入によるコスト削減を進めている。

また、地域活性化、魚食普及及び地産地消を目的に、まき網漁船から漁獲物を直接取り引きで買い入れ、漁協直売所及び朝市で新鮮な水産物の販売を継続していくとともに、現在建替えを計画している漁協施設においても積極的に水産物の販売に取り組む。また、6次産業化の礎として、4台の移動販売車による県内4市のJA直売所への出張販売の取組を継続し、

駿河湾の 마사バ など消費者ニーズを踏まえた魚種を積極的に提供していくこととする。

さらに、燃油消費の削減を図るため、操業中は母港（戸田）ではなく最寄り港への停泊、洋上停泊を実施する。

◆小型機船底びき網漁業

地域活性化、魚食普及及び地産地消を目的に、底びき網漁船から漁獲物を直接取り引きで買い入れ、漁協直売所及び朝市で新鮮な水産物の販売を継続していくとともに、現在建替えを計画している漁協施設において積極的に水産物の販売に取り組む。また、6次産業化の礎として、4台の移動販売車による県内4市のJA直売所への出張販売の取組を継続し、駿河湾の本えびなど消費者ニーズを踏まえた魚種を積極的に提供していくこととする。

また、魚市場の市場価格を見ながら協定休漁を引き続き設けることにより魚価単価の向上やコスト削減を図る。

◆沿岸漁業

鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者それぞれで行っている魚箱や氷の使い方に関する工夫を継続していくとともに、マダイ・ヒラメ・アワビの種苗放流や密漁等の漁場管理を継続して実施する。

これらの取組と併せて全漁業者は、漁船燃費向上のための船底状態の改善や漁場までの減速航行を実施する。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

◆海外まき網漁業

休漁期間（入港から出港期間時の休漁日数協定）を設けての資源保護活動

◆遠洋かつおまぐろ一本釣り漁業

資源管理指針に基づく自主的資源保護活動

◆大中型まき網漁業

TACによる漁獲管理

駿河湾海区操業で月1度の休漁期間（5日間）を設けての資源保護活動

◆小型機船底びき網漁業

1日の操業回数削減による資源保護活動（駿河湾地区申合せ事項）

地域魚市場の相場状況を勘案し適切な休漁等の実施による資源保護活動（沼津地区申合せ事項）

◆沿岸漁業

港内刺網漁禁止等による資源保護（漁協内規）

港内投錨釣り禁止による磯根の保護（漁協内規）

刺網漁は月1度の休漁期間（4日間）を設けての資源保護活動（申合せ事項）

他地区漁業権内への入漁協定の締結

共同漁業権内行使規則による資源保護（戸田漁業協同組合総会）

（4）具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和元年度）

漁業収入向上 のための取組 (目標値 0.3%)	<p>◆海外まき網漁業及び遠洋かつおまぐろ一本釣り漁業</p> <p>○焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、移動販売にて県内4箇所のJA直売所や、漁協直売所にて販売する。</p> <p>○水揚げしたカツオを県内（他地区）の鰹節加工業者に <u>委託し荒節加工したものを、漁協が整備する鰹節削り機を活用して最終商品となる花かつおに加工する。花かつおは直売所や朝市、移動販売車等で販売を行うとともに、現在建替えを計画している漁協施設においても積極的に販売に取り組む。</u></p> <p>◆大中型まき網漁業</p> <p>○沼津港に水揚げするアジ、サバ、イワシ等（雑魚含む）を漁協と直接取引し、県内4箇所の移動販売先であるJA直売所や漁協直売所で販売を行う。このため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（施氷等）をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。また、買い取ったサバ、イワシ等を漁協で加工して販売することで付加価値向上を図る</p> <p>◆小型機船底びき網漁業</p> <p>○戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食セレクション」に認定されたほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後 <u>直ちに急速冷凍した原魚を積極的に確保し、パッケージ等を工夫した手軽に刺身や天ぷら等に調理可能な冷凍パック製品として販売促進を図る。</u></p> <p>○戸田漁港に当日水揚げする漁獲物の一部を 漁協 と直接取引し、漁協を</p>
--------------------------------	---

	<p>通じて直売所や移動販売で販売を行うため、底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（施氷等）をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。</p> <p>○県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発（ねりもの等）<u>用に原魚の提供を行うとともに、完成した商品は直売所等で販売を行い、販売促進に努める。</u></p> <p>○戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用し戸田地区の観光振興を図る。</p> <p>◆沿岸漁業</p> <p>○一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、漁業者間で出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。</p> <p>○漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っているマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組(目標値4%)</p>	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・沼津市水産業振興新事業（大型船） ・沼津市出漁促進事業（小型船） ・焼津市遠洋漁船水揚促進支援事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業

2年目（令和2年度）

漁業収入向上のための取組 (目標値 0.5%)	<p>◆海外まき網漁業及び遠洋かつおまぐろ一本釣り漁業</p> <p>○焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、移動販売にて県内4箇所のJA直売所や、漁協直売所にて販売する。</p> <p>○水揚げしたカツオを県内（他地区）の鰹節加工業者に <u>委託し荒節加工したものを、漁協が整備する鰹節削り機を活用して最終商品となる花かつおに加工する。</u>花かつおは直売所や朝市、移動販売車等で販売を行うとともに、<u>現在建替えを計画している漁協施設においても積極的に販売に取り組む。</u></p> <p>◆大中型まき網漁業</p> <p>○沼津港に水揚げするアジ、サバ、イワシ等（雑魚含む）を漁協と直接取引し、県内4箇所の移動販売先であるJA直売所や漁協直売所で販売を行う。このため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（<u>施氷等</u>）をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。また、買い取ったサバ、イワシ等を漁協で加工して販売することで付加価値向上を図る</p> <p>◆小型機船底びき網漁業</p> <p>○戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食セレクション」に認定されたほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後 <u>直ちに急速冷凍した原魚を積極的に確保し、パッケージ等を工夫した手軽に刺身や天ぷら等に調理可能な冷凍パック製品として販売促進を図る。</u></p> <p>○戸田漁港に当日水揚げする漁獲物の一部を 漁協 と直接取引し、漁協を通じて直売所や移動販売で販売を行うため、底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（<u>施氷等</u>）をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。</p> <p>○県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発（<u>ねりもの等</u>）<u>用に原魚の提供を行うとともに、完成した商品は直売所等で販売を行い、販売促進に努める。</u></p> <p>○戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用し戸田地区の観光振興を図る。</p>
----------------------------	---

	<p>◆沿岸漁業</p> <p>○一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、漁業者間で出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。</p> <p>○漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っているマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。</p>
漁業コスト削減のための取組(目標値5%)	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない(5%程度)船底塗料を導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・沼津市水産業振興新事業（大型船） ・沼津市出漁促進事業（小型船） ・焼津市遠洋漁船水揚促進支援事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業

3年目（令和3年度）

漁業収入向上のための取組(目標値1.0%)	<p>◆海外まき網漁業及び遠洋かつおまぐろ一本釣り漁業</p> <p>○焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、移動販売にて県内4箇所のJA直売所や、漁協直売所にて販売する。</p> <p>○水揚げしたカツオを県内(他地区)の鰹節加工業者に<u>委託し荒節加工したものを、漁協が整備する鰹節削り機を活用して最終商品となる花かつおに加工する。花かつおは直売所や朝市、移動販売車等で販売を行うとともに、現在建替えを計画している漁協施設においても積極的に販売に取り組む。</u></p>
-----------------------	---

◆大中小型まき網漁業

○沼津港に水揚げするアジ、サバ、イワシ等（雑魚含む）を漁協と直接取引し、県内4箇所の移動販売先であるJA直売所や漁協直売所で販売を行う。このため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（施氷等）をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。また、買い取ったサバ、イワシ等を漁協で加工して販売することで付加価値向上を図る

◆小型機船底びき網漁業

○戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食セレクション」に認定されたほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後 直ちに急速冷凍した原魚を積極的に確保し、パッケージ等を工夫した手軽に刺身や天ぷら等に調理可能な冷凍パック製品として販売促進を図る。

○戸田漁港に当日水揚げする漁獲物の一部を 漁協 と直接取引し、漁協を通じて直売所や移動販売で販売を行うため、底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（施氷等）をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。

○県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発（ねりもの等）用に原魚の提供を行うとともに、完成した商品は直売所等で販売を行い、販売促進に努める。

○戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用し戸田地区の観光振興を図る。

◆沿岸漁業

○一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、漁業者間で出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。

○漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っているマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。

<p>漁業コスト削減のための取組(目標値6%)</p>	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない(5%程度)船底塗料を導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・沼津市水産業振興新事業(大型船) ・沼津市出漁促進事業(小型船) ・焼津市遠洋漁船水揚促進支援事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業

4年目(令和4年度)

<p>漁業収入向上のための取組(目標値1.5%)</p>	<p>◆海外まき網漁業及び遠洋かつおまぐろ一本釣り漁業</p> <p>○焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、移動販売にて県内4箇所のJA直売所や、漁協直売所にて販売する。</p> <p>○水揚げしたカツオを県内(他地区)の鰹節加工業者に<u>委託し荒節加工したものを、漁協が整備する鰹節削り機を活用して最終商品となる花かつおに加工する。花かつおは直売所や朝市、移動販売車等で販売を行うとともに、現在建替えを計画している漁協施設においても積極的に販売に取り組む。</u></p> <p>◆大中型まき網漁業</p> <p>○沼津港に水揚げするアジ、サバ、イワシ等(雑魚含む)を漁協と直接取引し、県内4箇所の移動販売先であるJA直売所や漁協直売所で販売を行う。このため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱(施氷等)をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。また、買い取ったサバ、イワシ等を漁協で加工して販売することで付加価値向上を図る</p> <p>◆小型機船底びき網漁業</p>
------------------------------	--

	<p>○戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食セレクション」に認定されたほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後 <u>直ちに急速冷凍した原魚を積極的に確保し、パッケージ等を工夫した手軽に刺身や天ぷら等に調理可能な冷凍パック製品として販売促進を図る。</u></p> <p>○戸田漁港に当日水揚げする漁獲物の一部を 漁協 と直接取引し、漁協を通じて直売所や移動販売で販売を行うため、底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（施氷等）をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。</p> <p>○県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発（ねりもの等）<u>用に原魚の提供を行うとともに、完成した商品は直売所等で販売を行い、販売促進に努める。</u></p> <p>○戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用し戸田地区の観光振興を図る。</p> <p>◆沿岸漁業</p> <p>○一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、漁業者間で出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。</p> <p>○漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っているマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組(目標値7%)</p>	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・沼津市水産業振興新事業（大型船） ・沼津市出漁促進事業（小型船） ・焼津市遠洋漁船水揚促進支援事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業
-----------	--

5年目（令和5年度）

<p>漁業収入向上のための取組 (目標値 2.0%)</p>	<p>◆海外まき網漁業及び遠洋かつおまぐろ一本釣り漁業</p> <p>○焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、移動販売にて県内4箇所のJA直売所や、漁協直売所にて販売する。</p> <p>○水揚げしたカツオを県内（他地区）の鰹節加工業者に <u>委託し荒節加工したものを、漁協が整備する鰹節削り機を活用して最終商品となる花かつおに加工する。花かつおは直売所や朝市、移動販売車等で販売を行うとともに、現在建替えを計画している漁協施設においても積極的に販売に取り組む。</u></p> <p>◆大中型まき網漁業</p> <p>○沼津港に水揚げするアジ、サバ、イワシ等（雑魚含む）を漁協と直接取引し、県内4箇所の移動販売先であるJA直売所や漁協直売所で販売を行う。このため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（施氷等）をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。また、買い取ったサバ、イワシ等を漁協で加工して販売することで付加価値向上を図る</p> <p>◆小型機船底びき網漁業</p> <p>○戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食セレクション」に認定されたほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後 <u>直ちに急速冷凍した原魚を積極的に確保し、パッケージ等を工夫した手軽に刺身や天ぷら等に調理可能な冷凍パック製品として販売促進を図る。</u></p> <p>○戸田漁港に当日水揚げする漁獲物の一部を 漁協 と直接取引し、漁協を通じて直売所や移動販売で販売を行うため、底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（施氷等）をていねいに行うことにより鮮度保持・品質向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁</p>
------------------------------------	--

	<p>獲物の提供を積極的に行う。</p> <p>○県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発（ねりもの等）<u>用に原魚の提供を行うとともに、完成した商品は直売所等で販売を行い、販売促進に努める。</u></p> <p>○戸田地区では、深海魚の聖地として深海魚の展示施設設置やイベント開催などを積極的に行っていることから、引き続き沼津市や地元関係者等と連携しながら深海魚を有効活用し戸田地区の観光振興を図る。</p> <p>◆沿岸漁業</p> <p>○一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図り、魚価向上のため漁業者がそれぞれ行っている魚箱や氷の工夫を継続していくとともに、漁業者間で出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。</p> <p>○漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っているマダイ、ヒラメ、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組(目標値8%)</p>	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・沼津市水産業振興新事業（大型船） ・沼津市出漁促進事業（小型船） ・焼津市遠洋漁船水揚促進支援事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業

(5) 関係機関との連携

静岡県水産技術研究所や沼津市商工会、観光協会等と積極的に連携を図る。
また、特にまき網漁業については、他港へ水揚げを行っていることから、関係県・市町村の漁業協同組合及び市場関係者等と適切に連携する。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 25 年度～29 年度：漁業所得
	目標年	令和 5 年度：漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

水産物の単価向上 (10%以上)	基準年	平成 25 年～29 年度平均 (5 中 3) 本エビ：単価 968 (円) メヒカリ：単価 348 (円) サザエ：単価 1,103 (円)
	目標年	令和 5 年度 本エビ：単価 1,065 (円) メヒカリ：単価 382 (円) サザエ：単価 1,213 (円)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

算出基準年は、漁協が販売強化に取り組む魚種 (本エビ、メヒカリ、サザエ) について、平成 25 年から平成 29 年の過去 5 年間に漁協が漁業者から購入した際の買上単価を 5 中 3 平均した数値である。
本エビの単価が年々増加傾向である理由として、平成 25 年から漁協が本エビのブランド化に向けて広く PR したことなどが考えられる。

							(単価:円)	
	H25	H26	H27	H28	H29	平均(5中3)	目標値	
本エビ	463	963	653	1,288	1,515	968	1,065	
メヒカリ	334	345	364	317	464	348	382	
サザエ	1,236	1,282	1,112	960	809	1,103	1,213	

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティ ーネット構築事業	燃油高騰による影響を緩和し漁業経営の安定に繋がる。
・沼津市水産物流通 促進事業（大型船） ・沼津市出漁促進事 業（小型船） ・焼津市遠洋漁船水 揚促進支援事業	地域市場の取扱高が伸び、地産・地消・地域ブランドの発祥に繋がる。 また、水揚奨励金支援により漁業経営安定に繋がる。
沼津市種苗放流事業	漁業者自らが資源保護に努めることで、将来的な漁業経営安定に繋がる。
沼津市魚食普及事業	地産地消、地域ブランドの発展に繋がる。